

教育委員会会議録

令和6年（2024年）2月定例教育委員会会議

開 会 日	令和6年（2024年）2月22日（木）	
開 会 時 間	午後2時00分 ～ 4時45分	
開 会 場 所	熊本市教育センター 4階 大研修室	
出 席 者	委員会	遠藤洋路 教育長 小屋松徹彦 委員 西山忠男 委員 澤栄美 委員 村田慎 委員
	事務局	田口清行 教育次長 小島雅博 教育次長 中村順浩 総括審議員兼教育総務 部長 須佐美徹 学校教育部長 他
提 出 議 案	議第 9 号 教育長の営利企業等の従事について 議第10号 熊本市立野外教育施設条例施行規則の一部改正について 議第11号 熊本市立小中学校の通学区域等に関する規則の一部改正について 議第12号 熊本市立小中学校の管理運営に関する規則の一部改正について 議第13号 熊本市教員等の資質向上に関する指標並びに教職員研修体系の改定について	
協 議	（1）「第2期 学校改革！教職員の時間創造プログラム」の延長（案）について	
報 告	（1）小中一貫教育及び小中連携教育に関する調査結果について （2）令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について （3）令和5年度（2023年度）心のアンケートの結果について	
自 由 討 議	（1）ICT教育の進捗状況と今後の課題について	
署 名	澤 栄 美	
	村 田 慎	
会議録作成者	教育政策課 玉野あゆみ	

令和6年（2024年）2月 教育委員会会議録【2月22日（木）】

〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長 〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長	令和6年2月定例教育委員会会議を開会いたします。 本日は、私のほか5人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。 会議録署名人は、澤委員と村田委員とします。
日程第1 前回会議録等承認 遠藤洋路 教育長	1月25日開催の令和6年1月定例教育委員会会議録及び2月13日開催の令和6年第2回臨時教育委員会会議録を各委員のお手元に配布しております。この会議録を承認することに、御異議はありませんか。 (異議なしの声) 異議なしと認め、前回会議録等を承認することに決定します。
日程第2 事務局報告の件 (1) 事業・行事等報告について ○ 前回定例会議（R6. 1. 25）以降の事業・行事報告 ○ 今後の予定	
日程第3 議事 ・議第9号 教育長の営利企業等の従事について 遠藤洋路 教育長 小屋松徹彦 委員	議第18号 教育長の営利企業等の従事については、私の一身上に関する案件です。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第6項の規定により、当事者は、議事に参与することができないこととされていますので、第一職務代理者である小屋松委員に議事の進行をお願いしたいと思います。 それでは、私が議事の進行を務めさせていただきます。 教育長から、当事者は議事に参与することができないとの説明がありましたので、教育長の退室をお願いします。 (教育長退室)

《中川浩二 教育政策課長 提案理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

（教育長入室）

・議第10号 熊本市立野外教育施設条例施行規則の一部改正について

《原口琢哉 地域教育推進課長 提出理由説明》

西山忠男 委員	最後の説明をもう少し詳しくお願いしたいんですが、削除条文の第2条、第3条は、今後指定管理者による運営であるから必要ないということなんですね。
原口琢哉 地域教育推進課長	そのようなことでございます。
西山忠男 委員	ということは、指定管理者に市がお金を払って依頼をするとかたちなんですか。
原口琢哉 地域教育推進課長	指定管理として、そちらのほうに事務等の委託を全てしまして、運営をしていただくとかたちになります。
西山忠男 委員	その経費は市が払うんですかという質問です。
原口琢哉 地域教育推進課長	経費のほうは利用料等を今度取られるようになりますので、そういったもので運営をされていくということでございます。
遠藤洋路 教育長	よろしいですか。
西山忠男 委員	はい。
遠藤洋路 教育長	ほかに御意見、御質問はありますか。 御発言がなければ採決を行います。

令和6年（2024年）2月 教育委員会会議録【2月22日（木）】

遠藤洋路 教育長	議第10号 熊本市立野外教育施設条例施行規則の一部改正について、御承認いただくことに御異議ありませんでしょうか。 （異議なしの声） 御異議なしと認めます。 議第10号については原案のとおり決定いたします。
〔採決〕 【原案どおり承認された】	
・議第11号 熊本市立小中学校の通学区域等に関する規則の一部改正について 《原武尚子 指導課副課長 提出理由説明》 〔採決〕 【原案どおり承認された】	
・議第12号 熊本市立小中学校の管理運営に関する規則の一部改正について 《福田衣都子 指導課長 提出理由説明》	
西山忠男 委員	これは令和6年4月1日から小中一貫校になるということですよ。施設は特に変更なく今のままの施設で行うということでしょうか。
福田衣都子 指導課長	はい、そのとおりです。
遠藤洋路 教育長	ほかに御意見、御質問はありますか。 御発言がなければ採決を行います。 議第12号 熊本市立小中学校の管理運営に関する規則の一部改正について、御承認いただくことに御異議ありませんでしょうか。

令和6年（2024年）2月 教育委員会会議録【2月22日（木）】

遠藤洋路 教育長	(異議なしの声) 御異議なしと認めます。 議第12号については原案のとおり決定いたします。
〔採決〕 【原案どおり承認された】	
・議第13号 熊本市教員等の資質向上に関する指標並びに教職員研修体系の改定について	
《澤田伸一 教育センター所長 提出理由説明》	
西山忠男 委員	最初にお願いなんですけど、これは表が大きくて字が小さくて、タブレットではものすごい見づらいんですよ。字を読もうとして拡大すると、どこの欄を見ているのか分からなくなってしまって、非常に読みづらくて困ります。今度からこういうものは紙で配付していただきたいと思います。
遠藤洋路 教育長	はい、分かりました。そこは教育政策課で資料を取りまとめるときにチェックをしていただくようにお願いします。
西山忠男 委員	内容についてですが、危機管理能力についてなんですけど、校長の資質の危機管理能力のところは、もう少し校長として学校の特に防災とかその他の対策について、例えば具体的に学校の周りをふだんから見回って危険箇所を把握しているとか、災害時にどういう経路で避難するかということをちゃんと検討しているとか、もう少し具体的に書いていただいたほうがいいんじゃないかなという気がするんです。この文章はそこまで求めていないような抽象的な書き方になっていると思うんですけど、いかがでしょうか。
澤田伸一 教育センター所長	具体性を書いていくと、ほかの指標も非常に多くなってしまいますので、その辺のところを配慮しながら、今御指摘があったような少し具体性が分かるような書き方を今後検討していきたいと思います。また来年度の検討課題というかたちにしてい

	きたいと思いますが、よろしいでしょうか。
遠藤洋路 教育長	西山委員、よろしかったですか。
西山忠男 委員	はい、結構です。
遠藤洋路 教育長	じゃ、来年度に向けて検討をお願いします。
澤田伸一 教育センター 所長	はい。
澤栄美 委員	文言の「教諭」などの整理をしていただいてありがとうございました。 それで、改めて一番最後の10ページにそれぞれの資質があったので見てみると、どこもそうなんですけど、栄養教諭・学校栄養職員のところに、生徒指導というのがあって、児童生徒理解と教育相談というのがあるんですね。具体的の中身を見ていくと、生徒指導のそれぞれのステージで、例えば、1年から6年目のところは、いじめ、不登校等の問題の早期発見、未然防止の重要性について理解し、管理職への報告・連絡・相談やほかの教職員との情報共有を図っているとか、その次のステージだと、同じような感じで、最後のステージだと、似たような感じですかね。 私が例えば栄養教諭だったり栄養職員だったりしたときに、ここをどう捉えて自分を評価していくかなというのを考えたんですよね。というのは、栄養教諭、栄養職員の先生方も、給食指導などで子どもたちに接しますので、そこで例えば給食室のところで1人であることが多いですよとかそういう情報はいただいていたし、またある学校では、そういった子どもたち一人一人、例えば偏食がひどい子どもたちに具体的に接していっていらっしゃる方たちにもあったんですけど、実際には、でもそんなに接する機会というのは多くないと思ったときに、どんなふうに接していくかというのをある程度はっきりさせていくのも必要かなというのを思いました。 それを考えると、事務職員の先生方というのも特別な支援が必要な子どもたちに接していることって結構多いんですよね。だから教職員全員で子どもたちを見ていくという視点に立ったときには、事務職員の先生方にもそういったところに関わって

	いただくというのも一つあるかなとは思いました。 ここの一番最後の④の児童生徒・保護者への対応という中にその辺が入ってくるのかなと思いますけど、ちょっと意味合いが違うかなと思いますので、そのあたりを学校で具体としてできるかたちで下ろしていただけたらと思います。
澤田伸一 教育センター 所長	この事務職員については、先ほども申しましたように、今年度新たにつくりましたものです。事務職員の先生方とも相談しながらつくり上げていく中で、今ありましたように、生徒指導の部分は確かに関わりがあるんだけど、直接的な指導をすることは少ないというところで議論しました結果、そこにあるような一番下の児童生徒・保護者への支援というところでまとめさせていただいたところです。 今の澤委員の御意見を踏まえまして、来年度見直しを図るときに検討していきたいと思います。
西山忠男 委員	今の事務職員の資質向上に関する問題ですが、学校における事務職員の位置づけというのがよく分かっていないのかもしれませんが、すごく求められることが多いと思うんですね。これをもし見せられて、採用試験を受けますかと言われたら、これは学校の先生がすることじゃないんですかと言われそうな気がする内容が相当ありますよね。どういう人を学校事務職員として採用しているのか、ここまで求めるものなのかというのが私としてはちょっと疑問に感じるんですけど、その点はいかがなんでしょうか。
澤田伸一 教育センター 所長	事務職員に求める能力としては、非常に西山委員御指摘のとおり、多くなっております。ただ、チーム学校として、事務職員も一緒にやっていくという視点でつくったものですが、今御指摘のように、どういう人を求めるかという視点からいくと、もう少し省いてもいいものがあるかもしれませんので、その点も含めてまた検討させていただければと思います。
西山忠男 委員	学校事務職員の採用はどういう手順で行われていて、どういう人を対象に募集されているんでしょうか。その辺を教えてください。
上村清敬 教職員課長	学校事務職員の採用につきましては、市長事務部局に一括し

遠藤洋路 教育長	て募集をお願いしております。ただ、やはり行政の職員として、あえてこの学校事務職を受けられるというからには、なぜ学校のほうを目指すのか、やはり教育的にある程度理解があることを問うような内容を面接等でも行っているところです。 もちろん、教員とは求められるものの種類も違うかもしれませんが、同じ教育的なものを求めるとしても、大分程度が違うとか、そこは学校事務職員の場合はもっと薄く広くというようなかたちなのかなというふうには思います。文字にしようと同じような教育的愛情とかになるんでしょうけど。それは当然、教員に求められるものと事務職員に求められるものでは大分レベルは違うのかなというふうには思いますが、全くなくていいのかと言われると、やっぱりそれはある程度理解があってほしいということでここに書いてある。ただ、教員のように完璧に全部これを求めるということではやっぱりないでしょうね。
澤栄美 委員	これが出来上がって、その後、どんなふうの下ろしていけるかというのをお尋ねしたいです。というのは、以前もお願いをしたんですけど、結局こういうものが本人たちに理解されて自分の資質を上げていくということが一番大事だと思うんですよ、誰かが評価するというよりは。だからどんなふう到手元にいくように考えておられるか、ちょっと聞かせてください。
澤田伸一 教育センター 所長	まず3月に通知文として各学校に配付いたします。それから教育センターのホームページにも掲載いたします。各経年者研修、初任研、2年目研、3年目研がありますが、そういうところで必ず研修の最初に求められる指標を提示して、こういうことが今求められているんだということを確認してそれぞれの研修を始めております。以前、これを最初につくった頃よりは、先生方はこういう指標があるということは認識されているというふうに思います。今回もそのようなかたちで認識していただくように努めてまいりたいと思います。
澤栄美 委員	その悉皆研修ですけど、3年目研とかそういったものは割と若い時代にはあるんですけど、後のほうの時代ではあまりないので、今、研修がどうなっているのか分かりませんが。例えば養護教諭であれば養護教諭が集まるような研修とかあります

令和6年（2024年）2月 教育委員会会議録【2月22日（木）】

	よね。そういったところで一度確認をする、少なくとも存在について確認をする機会を設けていただくと、教諭や栄養教諭はどういうかたちか分かりませんが、そのように一つ取り上げていただくと、見てみようかなというところにいくかなと思いますので、よろしくお願いします。
澤田伸一 教育センター 所長	ありがとうございます。今回作成においても養護教諭会や栄養教諭会のほうにも御協力いただいておりますので、そちらのほうにも返しなが、また、今御指摘のとおり、養護教諭の先生方が集まるときにも話題にさせていただくように努めてまいりたいと思います。
澤栄美 委員	教諭は人数的に多いですけど、どうされますか。
澤田伸一 教育センター 所長	教諭が人数的に多いというのは……。
澤栄美 委員	養護教諭だったら養護教諭会とか、栄養教諭だったら栄養職員会とかがあるので、割と伝えやすいと思うんですが、教諭は非常に人数が多いですけど、その入り口はどうされますか。
澤田伸一 教育センター 所長	先ほど1、2、3年目と言いましたが、中堅研もございまして、教育センターのほうで15年目研も行っておりますので、まずはそのところは押さえていくと。それから校長先生がされる育成面談とかそういうところでもこれを活用していただくようにしていきたいと思います。またこれは研修にもつながっていきますので、今後、研修の記録とか、自分で研修計画を立てることになりますので、恐らくこれまで以上に先生方はこれを目にしながら自分の研修計画を立てたりすることになるというふうに思っております。そういうことをしっかりと伝えていきたいと思っております。
澤栄美 委員	分かりました。せっかくつくられたものですから、生かされるというのが大事だと思いますので、ちょっとしつこかったんですけど、よろしくお願いします。
西山忠男 委員	まず、細かいことすみません。校長の資質のところの①管理職としての素養の自己教育力・専門性・探究力・創造力のと

澤田伸一 教育センター 所長	ころに、校長（副校長・教頭）というのがありますけど、副校長と教頭を別につくられるというお話であれば、これは削除すべきじゃないでしょうか。 ここの部分は、先ほどの説明のとおりですと、削除すべきところなんですけど、この1年間はこれでいきますので、前回のものを踏襲して、ここの文言は残したところです。教頭という部分はこの資料とはかなり違うので、全く一致しているわけではありませんが、校長を目指される部分として、そこを見ていただくというところで、あえて残しております。次年度、つくり直すときには、そこのところもきちんと整理していきたいと考えております。
西山忠男 委員	今の点は了解いたしました。 もう一つ、質問というか意見というか、資質向上に関する指標についてです。校長の一番上のところの総合的な人間性・人権意識のところ、豊かな人間性と高い教養を持ちという文章があるんですけど、これよくこういう文章はあるんですけど、自分で自分に、自分は豊かな人間性を持っているかなとか、教養が豊かなってというのは自分では判断できないですね。こういう表現というのはどうなのかなと思うんですよ。 例えば私が教育委員に任用されたときに、人格高潔にしてという文章があったんですよ。ここに引っかかって、私、自分で人格高潔なんだろうかとすごく悩んだんですけど、それと同じようにやっぱり校長先生も感じるんじゃないかと思うんですね。自分で豊かな人間性があると思えるのか、高い教養があると思えるのか、そこをもう少し工夫して、指標となるような文言にできないでしょうか。
澤田伸一 教育センター 所長	資質向上に関する指標なので、今もし、こういうのがなければ、それをつけていくというような部分も意味合い的には兼ねておりますが、委員御指摘のとおり、もう少し指標にふさわしい表現を考えていきたいというふうに思っております。
遠藤洋路 教育長	ふさわしい表現を考えるということは何か書き直すんですか。
澤田伸一 教育センター	その辺のところは、また来年度のワーキンググループと、そ

所長	これから教員育成協議会のほうでこれを策定することになっておりますので、そちらのほうでまた議論して考えていきたいというふうに思っております。 今、西山委員から御指摘いただいた、そのこのこれを持ち合わせているかという部分については、今年度の教員育成協議会でも話題になったところでございます。そのときに先ほど申しましたように、今つけていなくても、こういうものをつけてほしいということで文言としてこういうふうに残った経緯がありますので、また議論して、ふさわしい表現というのが見つければ、そちらのほうに改めていきたいと思っております。
遠藤洋路 教育長	ここにいらっしゃる校長経験者の人は当然、豊かな人間性と高い教養を持っているということなんだと思いますけど、これも程度というか、なかなか数字で表せるものじゃないのは確かにそうです。
西山忠男 委員	ですから、指標ですから、豊かな人間性の指標とは何か、高い教養の指標とは何かということを明確にしてもらわないと、これ指標にならないですよという話をしているわけなんです。そのこのところを考えていただきたいなと思います。
澤田伸一 教育センター所長	かしこまりました。そのように検討してまいりたいと思います。
遠藤洋路 教育長	確かに方向性としてはこういうことなのでしょうけど、これは指標になっているかという、ほかの項目も指標と言われると、明確に指標になっているものというのは少ないかもしれませんね。ほかの自治体とかもこういう感じ、同じような感じなんですかね。
澤田伸一 教育センター所長	こういう感じの自治体もありますし、もっと簡略化した部分もあって、自治体によって今のところ様々な状況でございます。まだ熊本市と同じように、以前のものをそのまま使っているところもありますので、ほかの自治体の状況もまた確認しながら、よい表現がありましたら、それも取り入れながら改定していきたいというふうに考えております。
遠藤洋路 教育長	本当に指標になっているところもあるんですか。何点とか

令和6年（2024年）2月 教育委員会会議録【2月22日（木）】

	何%とか、そういう指標というところもあるんですか。
澤田伸一 教育センター 所長	本当にできているかどうかは何%ということでしょうか。
遠藤洋路 教育長	つまり指標というからには、個別の項目が何%以上できているとか、そういう数値目標というか、そういう指標になっているところはあるんですかということです。こういう定性的な書き方ではなくて、定量的な書き方をしているところはあるのでしょうか。
澤田伸一 教育センター 所長	すみません、今現在調べたところでは、そういう定量的なものはありませんでした。
遠藤洋路 教育長	じゃ、指標とは言いながらも、上から何%までに入るとか、そういうことが書いてあるところはないわけですね。分かりました。そうすると、指標と呼べるのかどうかというところはちょっと分からないですね。資質向上に関する目標ではあるかもしれないですね。
小屋松徹彦 委員	かなり重複していると思いますけど、今回の指標の活用の仕方というか、一応活用例と書いてありますけど、それで例えば教員等のところでいきますと、指標がいっぱい書いてありますが、こういったものを活用するというのは結果的に教員の方々がそれを目にすることで自分を振り返るきっかけをつくらないといけないですよ。そういうときにこの指標を果たして見るような機会というのがそれぞれの教員の方々に機会としてどれぐらいあるんだろうかなというのをちょっと心配するわけですね。もう少し手元に置いておけば、たまに見るとということもあるかもしれませんが、それがホームページにしかないということであると、なかなか見にいかないのかなと思いますので、もっと自らを時々振り返るという意味では、もっと身近なところにこの指標があったほうがいいかなというのが1点と、もう少し具体的にイメージできるような指標が欲しいなど、全体的にそのように思いました。
澤田伸一 教育センター 所長	指標の具体的な部分については、また来年度に向けて検討課題とさせていただきます。

小屋松徹彦 委員	教員の手元にという点については、今、ペーパーレスでやっておりますので、一応タブレット等で見ていただくかたちにはなるかと思います。 先ほどもお答えしましたように、校長先生方が行う育成面談等でもこれを活用していただけたらと思いますので、今まで以上に先生方は身近にこの指標を見ていただけることになるかと思っています。そういうことでよろしいでしょうか。
遠藤洋路 教育長	今おっしゃったように、機会あるごとに露出を高めていくとか、そういったことは必要ですね。 ほかに御意見、御質問はありますか。 御発言がなければ採決を行います。 議第13号 熊本市教員等の資質向上に関する指標並びに教職員研修体系の改定について、御承認いただくことに御異議ありませんでしょうか。 （異議なしの声）
遠藤洋路 教育長	御異議なしと認めます。 議第13号については、原案のとおり決定いたします。
〔採決〕 【原案どおり承認された】	
日程第4 協議	
・協議（1）「第2期 学校改革！教職員の時間創造プログラム」の延長（案）について	
《松永直樹 教育改革推進課長 説明》	
西山忠男 委員	最初にちょっと細かいことをお尋ねいたしますが、4ページの参考3、時間外在校等時間の1人1月当たりの平均時間で、高校、専門学校、これは多分、ビジネス専門学校のことだと思うんですけど、そこの教頭が73時間27分と異常に高いですけど、これはどういう理由でしょうか。

松永直樹 教育改革推進課長	私どもがお聞きした限りでは、高校・専門学校改革に伴います様々な業務によりまして時間外が増えているというのは一つお聞きをしております。
古家幸生 総合ビジネス専門学校校長	データとしては73時間と出ておりますけど、80時間を超えているのは、今年度は2回ではなかったろうかと把握しております。年が明けましてからは50時間ぐらいになっているのではなかろうかと把握しております。確かに松永課長からもありましたとおり、この2年間、専門学校ではカリキュラムの変更等、かなり会議も増やしまして、時間外のほうも増えざるを得ない状況がありました。そういった改革の影響が一番大きいのではなかろうかと考えております。
西山忠男 委員	分かりました。それはビジネス専門学校の特異な事情だったかもしれませんが、やっぱり一番の問題だと思いますのは、この2ページの1か月で80時間を超える教職員数がいまだに157人いるということです。当初の791人からすれば大分減ったんですけど、やはり80時間というのは過労死ラインと言われていますから、ここをまず限りなくゼロにしないといけないんじゃないかと思います。これが一番の緊急の課題ではないかと思うんですけど、どういう対策が考えられるか、お聞かせいただけますか。
松永直樹 教育改革推進課長	月80時間を超えている教職員の中で多いのが2要素ございまして、教頭先生と中学校で部活動指導を行っている先生ということで数字として出ております。 まず、中学校の部活動につきましては、現在の部活動改革検討委員会で御意見をいただきまして3月には答申予定ですが、その方向性に沿いまして、改革を着実に進めてまいりたいと考えております。 一方、教頭先生におきましては、今、業務の分析を詳細に行っております。例えば教頭先生が必ずしも行わないでいいような業務の洗い出しについて、その洗い出した業務をほかの先生に割り振るということで、ちょっと心苦しいところはあるんですが、そういった校内での役割分担の見直し、またシステムの改修を含めましたそもそもの業務の改善等、そういったことを進めていきたいと考えております。

	さらに、先ほど御指摘があったとおり、大分減りまして、157人という数字になってまいりましたので、お一人ずつの状況について分析といいますか、課題等をお聞きしながら進めていくような状況にはなってきたのかなと思います。そういった個別の事案等の確認をしつつ、どのような対策ができるかというのを教頭部会等で議論をし、また校長先生等にも御相談をしながら進めていくというようなことを今考えているところでございます。
西山忠男 委員	御説明ありがとうございました。大体分かりましたけど、この157人の教頭先生、教頭先生がかなり多いとして、やはり大規模校の教頭がどうしても残業が多くなるという傾向があるんでしょうか。
松永直樹 教育改革推進課長	我々のほうで把握している限りにおきましては、必ずしもそういうことでもないというようなこともございます。大規模校であれば2人教頭先生がいらっしゃると思いますので、一概に言えない部分がありますけど、やっぱり生徒数が多いと負荷が高いというのは間違いないところでございまして、その部分についての配慮が必要です。一方で小規模校におきまして、何か課題があれば、少人数で様々な問題を解決していくということでの負荷、それも一方ではあるということもございますので、そこについては目配りをしてやっていく必要があるかというふうに思っているところでございます。
西山忠男 委員	この問題については、学校ごとにやはり現場でも考えていただきたいと思うんですね。なかなか一般教員はそこまで気持ちが回らないかもしれませんが、この学校で80時間を超えて残業する人は出さないという気持ちで、教職員が一丸となって取り組むというような雰囲気をやっぱりつくっていただかないと、なかなかこれはなくなならないんじゃないかという気がいたします。お願いします。
小屋松徹彦 委員	今の西山委員に関連してなんですが、もう一つ確認をしたいんです。先ほど課長から御説明があったときに、時間が長い人は、参考1の説明のときに、年齢の高い人は恐らく教頭先生だろうなというのはある程度予想がつくんですけど、一方で若い先生が多いというのもありましたよね。これは多分、部活動が

松永直樹 教育改革推進課長	一番の原因かと思うんですけど、そのほかに何か原因って考えられませんか。
	資料4 ページ目のほうが分かりやすいかもしれませんが、参考3で、時間外在校等時間の1人1月当たりの平均時間を記載しておりますけど、若年層については、小中学校ともに20代が非常に多くなっております。これは採用してすぐということで、業務に不慣れであるとかそういったことが影響していると考えておまして、現在、時間創造プロジェクトや分科会等におきまして、先生方が参考にできる実務研修やマニュアル等の在り方が考えられないかというようなことを含めまして対応したいと考えているところでございます。
小屋松徹彦 委員	要するに校務が若手のほうにしわ寄せがいくといいますか、若手のほうにどんどん負担をかけていくみたいなそういったことはないですね。
遠藤洋路 教育長	それは誰か学校の中に詳しい人がいいかもしれませんが。
田口清行 教育次長	実際に校長先生方の面接の際に学校の状況ということでお伺いしました。その中で、全てではありませんが、やはり教頭先生が非常に時間外の多い方がいらっしゃる。それから若い人たちもやはり、先ほど課長のほうからもありましたけど、業務が若い人たちにというよりも、やはり不慣れでなかなか手順ですとか、そのあたりで時間がかかるというふうなことがあるということではあります。ですので、校長先生たちと話した中では、やはり校内でベテランの方とペアを組まれたりとか、チームで少しでも時間を上手に使えるようなアドバイスをさせていただいたりとか、一緒に仕事を進めることで時間を短くしていただくというふうなことでお願いをしたいと、校長先生方からの話も含めてお話をしているところでございます。
澤栄美 委員	2点ですけど、1点目は3ページの参考1の年代別の人数で、それぞれの例えば職種別でいうと、教頭、校長先生、園長先生とか、職種別で人数が違うと思うんです。母数が違うので、ただ人数を比較することってできないですね。だから、割合でも分かるというかなというふうに思いました。それは年代別でも一緒だと思いますけど、今はやっぱり20代ぐらいもかなり

多くなってきているかなと思いました。

それから、もう一つは6ページで、第2期プログラムの延長で主な見直しの中の②のところ、さっき触れられましたけど、課業日外に行っていた地域行事等の参加の在り方というところでは、例えば日曜日とか、餅つき大会とか、そういうのには行きたくないなという声はかなり現場でもあっているというのは私も承知しているんですけど、例えば私が知っている例では、五福小学校で風流街浪漫フェスタというのが10月にこどもたちの総合的な学習の学びの発表の場も含めて地域と一緒にやるものとか、城東小学校の健康教育に関わるものとか、地域とやることで、学校の教育がまた価値あるものになっていくというものはあると思うんですね。

私は五福にいましたので、具体的に知っているところでいうと、その日はお休みの日なので、別の日にちゃんと代休があるわけですね。そういったものはなくさないようにしないと、地域の人と接するのは不得意なんだよねという先生はかなり多いんですね。でも実際、いろんなことをやっていくと、これからコミュニティスクールとかいろんなことを進めていこうという今の教育委員会の方向性から考えても、何となく不得意だからここはやめていこうという流れにならないようにしたいなというのが一つあります。

また、③のDXの推進というところで、欠席連絡等があるんですけど、一部でちょっと聞いたのが、中学校になると、自分で欠席連絡をしてしまうので、どうもこの子はちょっとどうかなというときには先生方が早くに親御さんに連絡をするとか、そういったことはやっているということではありましたが、その辺が課題を抱えているこどもの対応に悪いほうに影響しないようにしてもらいたいなというふうに思っています。

2点と言いながら、3点、4点になっていてすみません。それから、④の文書収受及び調査回答というところなんですけど、現場ではいろいろな調査が入ると、例えばストレス調査のときとかは、よくみんなで冗談みたいに言われるのが、これ自体がストレスなんだよねというように、そんな言い方で仕方なくやっているみたいな声はたくさん聞こえるわけですね。だから、この調査回答の結果についてどういうふうに役立てるのかとか、そういったものを明確にお知らせすると同時に、実際に調査で自分たちが言うことによりこんなふうに変わるんだなというような内容にしていただけるといいのかなと思いました。

松永直樹 教育改革推進課長	まず、1点目の御指摘の表の部分でございますが、もう少し分かりやすいような表記といいますか、資料の追加等も準備をして御提示をさせていただきたいと思います。 次に、地域行事等につきましては御指摘のとりの部分がございまして、これからさらに地域に開かれた学校ということで、様々な取組も進めていくこととなりますので、単純に地域と連携した行事をやらない、教育活動をやらないということではなく、例えばこれも先ほど触れていただきましたが、総合的な学習の時間等に組み込むでありますとか、土日に行わず、平日でもよいというものについては平日に開催をしていただく等の新しい取組を進めていくということができないか。さらには、例えば例年10人ずつ教職員に参加していただいているイベントが本当に10人必要なのか、二、三人でよくないかとかそういうことがあれば、そういったこともあわせて地域の皆様の御理解を得ながら進めていくというようなことを考えております。
中川浩二 教育政策課長	委員御指摘の欠席連絡等、今年度、小中学校合わせて14校ほどでアプリの導入試験を実施させていただきました。この欠席連絡等につきましては、保護者のほうに、こどもと紐づいて登録のお願いをしております、保護者も最大で4名ほど登録ができることになっております。欠席の連絡をすると、その登録をされた保護者全ての方が情報を見ることができるという仕様になっておりますので、先ほど御懸念がありましたこどもが勝手に欠席を自分自身で連絡するというような部分については、把握できるような仕組みというものを構築しているところでございます。 次に、文書の調査等につきましてお答えをさせていただきます。確かに最近はアンケートであったり、学校にお願いしている調査ものというのは非常に多くなっている傾向がございまして、度々、学校のほうからも、整理についてしっかりやっていただきたいということで御要望もいただいております。我々も各課へしっかり調査の目的をまず明確にすること、調査の後にはそれをフィードバックするということも含めてお願いをしてきておりまして、確かにストレスチェック等、必要な照会も多々ございますので、しっかりそこはやっていきたいというふうに思っているところでございます。

村田 慎 委員

先ほど大規模校、小規模校での教頭先生の業務についてのお話がちょっとあったときに思い出したんですけど、もちろん大規模校に勤めておられる先生方はやっぱり人数が多いことというのが仕事量に直結していくというのがありますし、人数が少ない小規模校は、人が少ない分、保護者や地域の方などとの関係というか、コミュニティ、つながりが密なので、それはまた抱えるストレスというのが違うんですよとおっしゃっているのを聞いたことがあります。教頭先生が何年かで異動されたりしますよね。大規模校だった先生が小規模校に行くこともあるでしょうし、小規模校だった先生が大規模校に異動されてびっくりされることもたくさんあると思うんですけど、これはもちろん教頭先生だけじゃないですけど、それぞれ全く違う環境に異動したときのギャップというか、そういうところから生まれるストレスというのが増えないようにしてほしいというのが感想です。

自分の意見なんですけど、2つありまして、こちらの資料の11ページの教育課程の総合的な見直しのところです。ちょうど高校生との意見交換会に1月に参加させていただいたときに、とにかく課題が多くて自分の時間が持てないんですというふうに言っている生徒さんがいて、時間が持てない、ゆとりが持てないという声もあったんですね。年間授業時数を見直すというのは、もちろん数字として出すためにも、しっかり改革されていくのが必要だと思うんですけど、その見直しがイコール、単純にこどもに課題でさせることが増えるというふうにならないようにはしてほしいと、保護者としては感じました。

それから、もう一冊のほうの資料のこの冊子のページでいえば32ページ、資料データでいえば36ページになるんですかね。部活動のことが書いてあるところなんですけど、現状と課題というのが書いてあるところです。

遠藤洋路 教育長

36ですかね、右下の番号は。

村田 慎 委員

紙のページのところには32と打ってあって、データでは36ページですかね。現状と課題のところ、つい数日前にもニュースで部活動改革のことについては報道がされていましたけど、報道されるようになってから、当初から部活動改革検討委員会が出している結論の中で、どうしてもマスメディアの中では、部活動を継続するということが自体が大きく取り上げられて

松永直樹 教育改革推進
課長

しました。でも、あくまで一番のポイントは、教職員が指導を希望する、しないを選択できること、地域の人材も含めて、望む人が指導していけるようにするというのがポイントだったと私は認識をしていて、部活の顧問をしたい先生としたりと考える先生が両方いて成り立つ環境になるように向かっていっていること、ここがポイントだったんじゃないかなと思います。この場で何回も私も言わせていただいているんですけど、あくまで活動したい先生が責められることも、したくないと考える先生が仕事をしづらくなることもどちらも決してない環境になってほしいなというふうに感じています。

まず1点目の教育課程等の総合的な見直しの部分での課題提出に安易に頼らないということ等につきましては、そういった御意見が出ましたことを踏まえまして、また議論を進めてまいりたいと考えます。

また、2点目の部活動改革検討委員会の答申の方向性についての御意見ですが、委員おっしゃられますとおり、指導を希望する先生が指導する、地域人材の方々と共にということは非常に大きな柱でございます。一方で、なかなか報道等でそこら辺が取り上げていただけていないと。存続だけがクローズアップされているというような状況がございます。そういったことから部活動改革検討委員会におきましても、委員の皆様から、しっかりとこの答申に関する周知広報をまず図ってほしいというような御意見も出ておりますので、我々としましても様々な場面を通じて行ってまいりたいと思っております。また、取材等に來られます報道機関の皆様にも、その点について必ず言及をするようにしております、なかなかそれが結果に出ていない部分もあるんですけど、今後もしっかり伝えていきたいと思っております。あわせて、保護者や子どもたち、地域の皆様にも同じように御理解をいただくように説明をしてまいりたいと考えております。

遠藤洋路 教育長

ほかに御意見、御質問はありますか。
御発言がなければ、本件は以上といたします。

日程第5 報告

・報告（1）小中一貫教育及び小中連携教育に関する調査結果について

《福田衣都子 指導課長 報告》

村田 榎 委員

この調査のアンケートの結果が別冊の資料であることを拝見していて、質問の学校に行くのは楽しいですかとか、学校の中に、あなたの気持ちを分かってくれる人はいますかというのは分かるんですけど、質問の3番目の同学年の友達はたくさんいますかという質問は、これは必要なのかなというのがちょっと引っかかっていて、そこはどういう意図でというか、設問があるのかをちょっと確認をさせていただきたいなと思います。

福田衣都子 指導課長

これは数年続けている質問紙で、質問を変えずに聞いているところではございます。

また、質問4のほうに、異学年の友達はどうですかと聞いていますので、これが直接小中一貫というよりも、同学年の友達の状況を知ること、異学年の友達はどうかというところとも比較して考えていけるのではないかと感じております。

村田 榎 委員

異なる学年に仲がいい人がいるとか、あと後半のほうで、授業の内容が分かっていますとか、意欲的に学習に取り組んでいますかという、そうしているべきなんだろうなという項目の質問が並んでいる中で、この友達は多くいますかというのが入っていると、たくさんいないといけないのかなと感じてしまうお子さんがいるかもしれないなとちょっとそこが引っかかったので、確認をさせていただきました。ありがとうございました。

西山忠男 委員

保護者質問11で、小中一貫教育、連携教育について期待する内容はなんですかということで、学力の向上、学習意欲の向上と小・中学校間の滑らかな接続などが上位に来ているわけですが、去年かおとしか、二岡中と託麻東小を訪問したときに、小・中学校間の滑らかな接続というのは非常にうまくいっているという話で、なるほどよかったなと思ったんですけど、学力の向上、学習意欲の向上について効果が上がっているというデータは今、出ているんでしょうか。教えてください。

令和6年（2024年）2月 教育委員会会議録【2月22日（木）】

福田衣都子 指導課長	学力の向上、学習意欲の向上が出ているというところまではまだ分析ができておりません。
遠藤洋路 教育長	これは分析はしているんですか。
福田衣都子 指導課長	いえ、まだそこまではできておりません。
遠藤洋路 教育長	いや、できていないというのは分かるんですけど、それはしている途中だということですか。それとも着手していないという意味ですか。
福田衣都子 指導課長	はい、まだしておりません。
遠藤洋路 教育長	それはしたほうがいいんじゃないですか。
福田衣都子 指導課長	今後検討していきたいと思います。
遠藤洋路 教育長	ほかに御意見、御質問はありますか。 御発言がなければ、本件は以上といたします。
・報告（2）令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について	
《福田衣都子 指導課長 報告》	
西山忠男 委員	6ページの市基準値との比較とそれから7ページの全国平均との比較を見ると面白い傾向が見えて、長座体前屈は基準値に比べると向上しているんですけど、全国平均に比べると2ポイントほど低いと。逆に20メートルシャトルランは市基準値を上回っているところは全くないんですけど、全国平均で見ると2ポイントほど高いということで、結局、長座体前屈は前から悪かったので、現場で一生懸命、改善に取り組んでいるということなんでしょうか。教えてください。
福田衣都子 指導課長	委員御指摘のとおり、長座体前屈はかなり課題だということろは私たち、認識しておりまして、それに向けて学校へのアド

遠藤洋路 教育長	バイスや担当者会議での説明等も重ねておりますので、意識して取り組んでいただいている結果も要因にあるのではないかと考えております。 ほかに御意見、御質問はありますか。 御発言がなければ、本件は以上といたします。
・報告（3）令和5年度（2023年度）心のアンケートの結果について 《吉里麻紀 総合支援課長 報告》	
西山忠男 委員	ちょっと言及されましたけど、10ページの自己有用感といじめ被害者の発生率のグラフをちょっともう少し説明していただきたいんです。これどういう意味なのかなと思って、よく分からないんですが、自己有用感があれば、いじめられないというのが役に立っているという意味なんでしょうか。自己有用感があっても、いじめられるというのが役に立っていないというところに相当するんでしょうか。ちょっと教えてください。
吉里麻紀 総合支援課長	私たちとしましては、いじめを受けると、自己有用感が下がる、またはどちらのほうもあるのかなというふうに分析をしています。
西山忠男 委員	役に立っているというこの表現が理解できない。何がどう役に立っているという意味なんでしょうか。
吉里麻紀 総合支援課長	失礼いたしました。役に立っているというのは、学校生活の中で何らか誰かの役に立っていると感じているという生徒の数でございます。
遠藤洋路 教育長	これ、役に立っているという選択肢を選んだ人という意味ですか。
吉里麻紀 総合支援課長	そうです。
西山忠男 委員	それといじめに関しての発生率の関係というのが分からない

	です。
吉里麻紀 総合支援課長	失礼しました。これはいじめの被害を受けたと答えた児童生徒の中で自己有用感を感じていると答えた生徒の相関関係がどうかというものを調べたものです。いじめの被害を受けた生徒の中で、自己有用感、役に立っている、まあまあ役に立っているということもたちがどれほどいるのかというところを確認しております。
西山忠男 委員	分かりました。
遠藤洋路 教育長	学校生活の中で誰かの役に立っていると感じることはありますかという質問で、「役に立っている」と答えている人ほど、いじめの被害を受けている割合が少ないということなんじゃないかな、この結果でいうと。
吉里麻紀 総合支援課長	はい、そのとおりです。
遠藤洋路 教育長	それが総合支援課のさっきのお話だと、いじめを受けた人のほうが自己有用感が下がるということもあるし、自己有用感が高い人ほど、いじめを受けにくいということもあると、そういうことなんですかね。
吉里麻紀 総合支援課長	そのとおりです。どちらかというと、前者、いじめを受けることによって自己有用感が下がるという傾向があるのではないかとということで分析しております。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 この選択肢は「役に立っている」と「役に少し立っている」「役にあまり立っていない」「役に立っていない」というふうに10ページには書いてあるんですけど、最初のページだと、「役に立っている」と「まあまあ役に立っている」というふうに答えた児童生徒の割合が出ています。「まあまあ役に立っている」と「役に少し立っている」は同じことということでよろしいのでしょうか。
吉里麻紀 総合支援課長	実際の項目では、「役に立っていると感じていることが少しある」と「あまりない」「ない」ということで答えをいただいております。

令和6年（2024年）2月 教育委員会会議録【2月22日（木）】

	ります。
遠藤洋路 教育長	そうすると、この1ページ目の「役に立っている」と「まあまあ役に立っている」と答えた児童生徒の割合というのは、「役に少し立っている」というほうが正確だということですか。
吉里麻紀 総合支援課長	失礼しました。「ある」「少しある」、その両方の児童生徒の数を出しております。
遠藤洋路 教育長	いえ、私の質問は「まあまあ」と「少し」というのは同じことなんですかという質問です。
吉里麻紀 総合支援課長	そのとおりです。
遠藤洋路 教育長	「まあまあ」じゃなくて「少し」が正しいんですね。しつこいですけど。
吉里麻紀 総合支援課長	実際の質問では「ある」「少しある」という説明で聞いておりますので、そこで少し日本語が変わっております。失礼いたしました。
遠藤洋路 教育長	分かりました。「少し」と「まあまあ」は同じなのと言われると、何となく違うような気もするので、それぞれ表記は正確にお願いしたいと思います。
澤栄美 委員	6ページで、誰に話をしましたかというところで、案外、担任の先生に相談しているというところはうれしい結果かなと思います。以前、大分前に見たのでは、家族が一番、特に小学校なんかは多かった記憶があるので、担任がそれだけ相談に乗っているということはいいいことかなと思いつつ、11ページで、いじめの早期発見・早期対応についてのところで、さっきもちょっと相談について触れられたと思いますけど、安心して相談できる環境づくりや仕組みが求められるということで、これは具体的にはどんな仕組みとかそういったものを考えておられるかというのをお聞きしたいと思います。
吉里麻紀 総合支援課長	仕組みづくり自体はこれから協議をしていくところではありますけど、回答の中で、知られたくないとか、心配をかけると

	というような子どもたちの意見があります。いじめなどを大人や周りの方に相談することは決して心配をかけることではなくて、そのことで悩んでいること自体が大人としては心配だよというようなことをメッセージとして子どもたちに伝えていくことであったり、いじめということは誰にでも起こることでもあるので、知られたくないとか、恥ずかしいことではないんだよということをぜひ子どもたちに伝えていきたいなど。そういった意味で、安心できる相談できる環境づくりをその一つとして取り組んでいきたいと考えております。
澤栄美 委員	タブレットに相談できる仕組みをつくっているというところもあるかと思うんですけど、今言われたように、相談すること自体が大事なんだというところを知らせるというのも非常に大事だと思うんですね。というのが、7ページの「知られたくない」「心配をかける」「さらにいじめられる」というところですけど、中学生で特徴的なのが「解決しない」というところが非常に多くなっているんですよ。今年度、小学校の教科書の採択がありましたけど、道徳の教科書の中でも、いじめについて取り上げている部分が結構ありましたし、そういったことで、しっかりと一次予防的な部分の指導をやっぱり学校でしっかりとやっていくということも学校のほうに理解してもらえるように教育委員会からもお願いしていくといいのかなというふうに思いました。
西山忠男 委員	関連してですけど、城東小学校で小学生、中学生の何人かと面談したときに、いじめのことを強く言われたんですよ。それで、彼ら、彼女らにとっていじめが非常に切実な問題なんだということがよく分かりました。そのときに、もっと先生に話しやすい相談しやすい雰囲気をつくってくださいと言われたんですよ。このデータを見ると、結構担任の先生には相談しているんだけど、それでもやっぱりそういう意見が出るということは、まだまだ隠れた相談できない人たちがたくさんいるんだろうなということを今、思いました。ですから、そのことを現場の先生方に伝えていただいて、気軽に相談できるように体制をつくってくださいと、そういう雰囲気をつくってくださいとお伝えいただければありがたいと思います。
吉里麻紀 総合支援課長	校長会や生徒指導主任・主事会等でもそういったことをお伝

村田 慎 委員

えしていきたいと思います。

私も、この相談したくてもできなかった児童生徒というところの、11ページの、安心して相談できる環境づくりや仕組みというところを見て、今回のこどもの権利サポートセンターとか、こどもたちの声をどんどん早い段階で拾ってもらえるようになったらいいなというふうに思うんです。

あるこどもがいて、いじめを受けていました。物を捨てられたりとか、隠されたりとか、人の物を隠してその子がやったというふうに犯人扱いされたりとか、そういういじめがずっと続いていて、1年以上続いていて、それをその子は親には話さなかったんですよね。でもそれはまさしくこの中にもありますけど、心配をかけたくない、親に悲しい顔をさせたくないという理由から話をしていなかったんですけど、そしたらある日、その子の自宅に死ねと書かれたはがきが届いて、それを保護者が直接受け取ったことで、こどもがいじめられていることを親が初めて知って、そのときにその子が親にものすごく泣いて怒られたと。何で自分に話してくれなかったんだと。そのとき怒られて初めて、その子は自分が心配かけたくないなというふうに思ったこと自体が正しくなかったんだなというふうに思ったんですね。

だからその子は、今でもいじめを苦にした自殺などのニュースを見たときに、親は何していたんだとか、親が気づくべきだっただろうというふうに亡くなった子の家族がたたかれたりするニュースがあるのを見るたびに、こどもがなぜ親に話さなかったのかという気持ちがとてもよく分かる。すみません、これは実は私の話なんですけど、そういう経験もあるので、本当にこどもさんたちの中で親に心配させたくないという人がきつといっぱいいて、そうした子たちの声を権利サポートセンターとか、早い段階でたくさんどんどん拾ってもらえたらなと思います。

遠藤洋路 教育長

何かコメントはよろしいですか。大丈夫ですか。分かりました。

ほかに御意見、御質問がありましたらお願いします。よろしいですか。

ぜひこれは先ほど村田委員からもありましたように、こどもの権利サポートセンター、こども局とも連携して対応していた

吉里麻紀 総合支援課長	だきたいと思いますので、この調査結果をこども局にも共有していただき、一緒に取り組んでいくようにしていただきたいと思います。 一つ、最初に言ったことに戻るんですけど、今年度の調査の一番大きな特徴として、自己肯定感というか、自己有用感というんですか、誰かの役に立っていると感じたこどもの割合が増えているという、これはいいことかと思うんですけど、なぜ急にこんなに増えたんでしょうか。 課の中で協議した中では、コロナが明けまして、いろんな行事ができるようになった中で、こどもたちが自分の得意分野で、その力であったり、役割を発揮できる機会が増えているのではないだろうかというふうに分析をしております。
遠藤洋路 教育長	なるほど。分かりました。そういうことで増えたのでしたら非常にいいことかなと思いますので、ぜひこれが続くようにやっていただければと思います。 ほかに御意見、御質問はありますか。 御発言がなければ、本件は以上といたします。
日程第3 議事	
・議第10号 熊本市立野外教育施設条例施行規則の一部改正について（追加説明）	
原口琢哉 地域教育推進課長	先ほどの熊本市立野外教育施設条例施行規則の一部改正のところで、西山委員から御質問をいただきました点に関しまして誤った答弁をいたしましたので、修正させていただきたいと思います。 西山委員からは、熊本市から指定管理者へ指定管理料を支払うのかというような御質問がございました。そのとおりでございまして、指定期間中、熊本市から指定管理料をお支払いするということで、私の説明でそこが抜けておりましたので大変申し訳ございませんでした。訂正しておわび申し上げます。
遠藤洋路 教育長	利用料金も取るけど、市から指定管理料も払うと、両方ということですね。分かりました。

日程第6 自由討議

・自由討議（1）ICT教育の進捗状況と今後の課題について

《吉田潔 教育センター副所長 説明》

遠藤洋路 教育長

では、自由討議に入ります。

時間は30分程度を目安といたします。

どなたからでも結構ですので、自由に御発言がありましたら
お願いをいたします。

澤栄美 委員

ICT教育の進捗状況と今後の課題についてということで、
以前にこういうのをやってほしいということで、今回はありが
とうございました。

7ページにリーディングDXスクール事業の取組についてと
いうことで、国のほうでもやはり学校間の格差があるというこ
とを言われていて、実際、二極化している状況が校内でも、全
体の学校間でもあるのかなと思ったときに、やはりそこをどう
いうふうに埋めていくかというのが今後の課題なのかなという
ふうに思うんです。例えば悉皆研修で、これは13ページに悉
皆研修を受ける人たちがいて、ほかの自主研修でも拾い上げて
いこうというようなことがあると思うんですけど、こういった
例えば情報モラル教育推進リーダー研修とかを受けた方とか管
理職とかが学校でそういったことをどう広げていかなという
のを考えたときに、やっぱりそこがうまく広がっていかないと、
どうしても校内の二極化というのも進むし、学校でそれをきち
っと持ち帰って広げようという動きがある学校とそうでない学
校では、やっぱり差が出てくると思うんですね。

先ほど動画で川上小学校の実践があって、熊本大学の前田康
裕先生が入って研修をされていました。熊本大学の教職大学院
の情報教育研究会が先週の土曜日にあったんですけど、タイト
ルが「新しい校内研修のあり方を考える」ということで、実際、
川上小学校の事例も研究主任の先生が出られて紹介がありまし
た。授業改善プロジェクトということで、単にICTを活用す
るということじゃなくて、授業を改善する中で、やっぱりICT
をどう使うかというところを先生たちが考えていくような研
修が各学校で必要なのかなというふうに思っています。

	そのときに出された資料の中に、『『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について』という令和4年12月19日の中央教育審議会の答申があり、その中に、「個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて」というのは、これは令和の日本型教育の文言ですけど、『『主体的・対話的で深い学び』を実現することは、児童生徒の学びのみならず、教師の学びにも求められる命題である。つまり、教師の学びの姿も、子供たちの学びの相似形である』ということで、こどもたちに主体的・対話的で深い学びを、そういうことをやっていくような教育をするために、教師がやっぱりそういう学びをしないとこどもたちにそれはできないでしょうという考え方だと思うんですね。 ですから、やはりこういった校内研修を変えていくということも非常に大事だし、悉皆研修を受けた皆さんが学校にその大事さを知らせていくというのもすごく大事なのかなというふうに、この資料をじっくり見せていただいて思ったところです。この間の総合教育会議のときも最後にちょっと触れさせていだいたんですけど、先生たちも一生懸命やろうとしていらっしゃるんで、それが全体に広がるような校内研修というのもしっかり広げていっていただけたらなというふうに思っています。
遠藤洋路 教育長	校内研修についてということですね。 何か、事務局からコメントはありますか。
吉田潔 教育センター副所長	今おっしゃられるように、悉皆研修の内容を現場の先生方全体にどう広げていくかというのはやはり課題かなというふうに思っておりますので、学校で下ろしていただく機会も設定するとか、ちょっとこのあたりも我々のほうで考えていかなくちゃいけないところかなと思っています。 校内研の改革については、今日も会議があり、そのお話が出ておりまして、学びの相似形という言葉がありましたけど、先生方が自分事にしていく研修というのはとても大事かなと思います。これまでも小学校も中学校も丁寧に校内研修を行っていただいておりますが、自分にとって今何が課題なのかということをやっぱり冷静に見て、ある学校では、そういう同じ課題を持たれる先生方がチームを組んで、ゴールに向かって1年間通して学んでいくというのをされている学校もございましたので、そういう校内研修自体の在り方も広めていく必要があるか

遠藤洋路 教育長

など思っているところです。

この資料でいうと7ページですかね。リーディングDXスクール事業の取組についてということで、これは国の資料ですけど、数年後に想定される端末更新時期を迎える前に全国全ての学校でというふうにある。熊本市の場合は、もう1年後に端末の更新を迎えることになりますので、その更新に当たって、やはり全ての学校で今までやってきたことが格差がないようにしていけないといけないということで。そういう意味で、このリーディングDXスクールのやっている学校が、11ページですかね、ほかの学校とちゃんと違いが出ているというか、成果が一つ出ているというのは大変意味のあることだと思うので、これをいかにその研修を通じてほかの学校、熊本市の全ての学校に広めていけるかという、そこはすごく今とても大事なところだと思いますので、まさに今、澤委員がおっしゃったとおりかなというふうに思います。

澤栄美 委員

自分をお願いしますって出した議題なのでいっぱい言いますが、今教育長が言われたように、本当にその赤で囲んである部分がリーディングDXスクールでは上がってきているということで、非常に大事だと思っていて、これからどういう人材を学校教育、社会教育も含めてですけど、その中で育成していくかというのを考えたときに、答えのあるものを言えることもじゃなくて、答えのないものに対してどう課題を立ててやっていけるかということをつくっていくのが学校のこれからの役割だということを、みんなが自覚するのがやっぱり大事だろうと思うんですよね。

やっぱりどうしても私たちは自分が受けた教育をそのままやろうとする傾向があると思うので、やはりそこが違ってきているということを共通理解する必要があると思います。ちょうど毎月やっている読書会で最近、専門性についての本を読んだんですけど、その作者の方も、これからどういう人材をつくっていくかというときにそういう答えのないものを生み出していくということが大事だと書かれていました。ほかの本でもかなり最近はそういうことが語られていますので、教育に当たる人たちがその意識をまず変えるということを大事にするというところで、今どういう時代にあるかというのを先生方も自覚するような、いつも苦野委員が対話と言われますけど、そういった対

遠藤洋路 教育長

話が学校でまずできていくことも大事なというふうに思います。

今の学校の授業とか活動の中で、今、澤委員がおっしゃった答えのない課題に取り組むというのがどのくらいあるのかなというのを考えると、どうしても教科の中だと答えがあることも多いのかもしれないですね。探究とか、あるいは道徳とか、それ以外の学級活動とか行事とか、そういう特別活動ですね、そういうものというのは答えのないものであったり、音楽とか美術とかもそうなのかもしれませんが、何かそういう活動をどのくらいこれから重視してやっていけるか、意図的にそれをしていけるかというところはとても大事なんだろうなというふうに今意見を聞きながら思いました。だから、探究が大事だというのはそういうことなだと思いますから、それは総合的な学習の時間とかだけでなく、それ以外の時間でも探究的な活動をいかに増やしていけるかというところは、今の私たちが直面している大きな課題というか、挑戦なのかなというふうに思います。

実際、どうでしょうね。答えがないことに取り組むというのは、先生も準備が大変だし、なかなかそれは簡単ではないでしょうけど、何かその辺のところ、今、澤委員がおっしゃったように、今までの自分が受けてきた授業じゃないものをやるというその難しさというのは、例えば教育センターの研修であったり、学校訪問であったりみたいところで、どんなふうにそれぞれの学校、あるいはそれぞれの先生に対してやってもらっているのか、何かその辺の考え方があったら教えていただけませんか。自分がやったことないことをやってくれというだけじゃきっと難しいですよ。それはどうやったら可能になるんですか。

吉田潔 教育センター副
所長

今、学校訪問等も一区切りついたところではございますけど、以前の私が経験した学校訪問のときには、1時間のこまの中で同じ教科であれば2人、3人いて、指導主事から指導いただくという場面があったんですけど、今はもうほぼマンツーマンに近い状態で、オンラインでの実施をしております。熊本市が目指す授業、3つ視点がありますけど、それに基づいた指導をしていくということは丁寧に今やれているのではないかなと思っています。

	ただ、なかなかやっぱり授業改善、なかなか変わらない部分もあります。従前からステップアップサポーターという役割の方々がおられるんですけど、授業づくり、指導案づくりから一緒に関わっていくというのを丁寧に今やっているところでございます。スムーズに変わるというわけにはいかないかもしれませんが、地道に、今2年に1回学校訪問に行くようにしてありますので、できるだけ全員の先生方の授業を見ていくということで対応しております。そういう個に対して指導主事が関わっているというのが熊本市の大きな特徴ではあるかなというふうに思っています。よろしいでしょうか。
遠藤洋路 教育長	分かりました。一人一人の授業を直接見て、そこにアドバイスをするという、そういうことで進めているということですね。はい、分かりました。
西山忠男 委員	8ページのリーディングDXスクール事業の取組というのがあって、ここで様々なICT教育の目標のようなものが羅列されているわけで、次のページには5つの小学校、中学校でこういったリーディングが実践されているということで、大変喜ばしいことだと思います。 これはだんだん全体に広がっていくんだと思うんですけど、こういう状況の下でやはりちょっと気になるのは、特別支援教育におけるICT教育の目標をどのあたりに置くのかということです。以前、野田先生から特別支援教育でもタブレットは有効に活用されていますと伺っていますが、もし、もう少し具体的に、例えばあおば支援学校とか平成さくらでどういったところに目標を定めているのか、あるいは、特別支援教育におけるICT教育の難しさ、あるいは課題というようなものが今見えているのであれば、分かる範囲で教えていただければありがたいと思います。いかがでしょうか。
野田建男 特別支援教育室長	ICTの活用について、全体的な目標を特別支援教育のほうで掲げているかということ、出していません。ICT、タブレット等につきましては、個別の目標に応じて使っていくということにはしていますので、障がい重いお子さんには重いお子さんなりの使い方があったり、軽いお子さんについては通常学級と同じような使い方をされたりする方もいます。お子さん方の将来の社会参加のことも考えながら、こどもたちには指導をし

	ているところでございます。 御質問の長所につきましては、先ほど申し上げたように、特性に合わせて対応ができております。あと、こどもたちにとっては学習意欲が高まるとか、また、音声とか、アニメーションとか、視覚的な支援とかもできるので、学習内容の理解もやっぱり高まってくるかなと思っています。それから、ドリル等も使っている特別支援学級等のお子さん方にとっては自主学習あたりもできます。特別支援学級の中にたくさんのこどもたちがいらっしゃいますので、先生がお一人で対応されている場合、一人の子に教えている間、もう一人の子はドリル学習するということもあります。自主学習的なことで主体性が育つということもあり、いい点がたくさんあるなと思っているところです。 課題につきましては、依存的な部分を抑えたりするのが難しいお子さんも多いので、タブレット等、やっぱりインターネットとか、そういった部分に頼ってしまうということはあるのかなと思います。やめる時間を決めても、なかなかそこがやめられないなど。それと、インターネットの適切な使用という部分では、最終的に被害を受けてしまうということもございますので、リテラシーとか、情報モラルあたりも教えていかないといけない。そういったところは課題と思っております。
西山忠男 委員	お子さんによって大分事情が違うというのはよく分かりますけど、私が思うに、やはり今の社会ってスマホが使えないと非常に不自由な社会になってしまったので、取りあえずお子さんたちが卒業したときに、スマホぐらいはある程度自由に使えるようなICT能力をつけてあげられたらいいかなという気がしています。よろしくお願いします。
遠藤洋路 教育長	このスライドの一番最後のページに、デジタル教材で特別支援教育からも注目と書かれていますけど、確かに学校を見に行くと、特別支援学級ではよく教育センターがつくっているアプリを使っていますね。結構な割合で使っているので、役に立っているんだなというふうに思います。特別支援学校では、この前見に行ったときは節分で豆まきしていましたので、あまりタブレットを使っていませんでしたけど、ふだんは使っているんですかね。特別支援学校ではどんな感じなんでしょうか。
野田建男 特別支援教育	特別支援学校につきましても、こどもの個に応じて使い方は

室長	違うと思いますが、一番使われるのは写真とか、そういった視覚的なものを提示したりすることが多いと思います。特別支援教育では子どもたちの主体的に動いてどうするというふうなところが目的になるので、自身で操作して自分の好きな写真を選ぶとか、ほかには、アプリとかで簡単な数を数えたりとか、足し算をしたりとか、絵本をアプリで読んでもらったりとか、そういった使い方はしているかなと思います。
澤栄美 委員	今のことで、読み書き障害があるこどもで、この間ちょっとお話ししましたが、代表の菊田さんの研修のときに、菊田さん御自身のお子さんが読み書き障害があって、授業時にパソコンを持ち込んで、拡大したプリンタなんかも自前だったみたいなんですけど、そういうのを使っていたということで、熊本市の場合も何かそういったこどもさんはやっぱりいらっしゃるのでしょうか。
野田建男 特別支援教育室長	読み書き障害については、全体的に読み書き障害があるかないかという診断あたりが出ているお子さんは、そういった使い方はしているかと思います。 あと、デイジー教科書といいまして、教科書を読んでもらったりとか、ルビや区切りが出たりとか、便利なアプリも大体3分の2ぐらいの学校が使っています。読み書き障害、またほかに、読み書き障害でなくても支援が必要なお子さんはそういった使い方をしているという状況でございます。
澤栄美 委員	それは担任の先生とかもかなり理解して使われているということですね。以前は、何か特別にあなただけ、それは違うんだよみたいな意識の先生方も多かったんですよ。特別支援に関して言うと、もう本当にこのICTを活用することで伸びてくるこどもが非常に多いということを言われているので、そういった先生方はもう今は大分なくなっているんじゃないかなと思います。
野田建男 特別支援教育室長	先生方のほうもかなり理解は進んでおりますので、そういった読み書き障害に関する理解であるとか、ICTの活用を積極的に導入していくとか、毎年毎年、研修等で理解啓発をしているところだと思います。

小屋松徹彦 委員	私は、もうiPadが使いこなせたらどんなにいいだろうというレベルで、本当に使いこなすということがまだできていませんので、学校の先生たちもこれを使いこなすのは大変だろうなと思いながら見ていました。 このSD研修とか、この少人数の研修とかありますけど、こういったことを受けながらどんどん自分のスキルを上げていくとか、そういったことを先生方もされているんだなと思うんですけど、今現在はどんななんですかね。例えば、このSD研修あたりを見てみると、10人、15人の定員で週1回やっていくというのをやっていらっしゃるんですけど、こういったものをどんどん先生たちが利用されていて、皆さんのスキルが上がっているのかということがちょっとどうなるんだろうなと思いながら見ています。全体的にこのレベルが上がっていかないと、多分最終的な子どもたちの教育の質というのなかなか均一になっていかないだろうなと思うんですけど、そこら辺はどんななんだろうなと思っています。
遠藤洋路 教育長	SD研修の利用実績とか、そういうことでしょうかね。
吉田潔 教育センター副所長	夜のSD研修に関しましては、人数的には20名にいかないぐらい。毎回出られる方はもちろんおられるんですけど、メニューによっては新規のものがあ、実は昨日もChatGPTを活用した研修を行いました、28人ぐらいの希望がございました。もちろん当初は慣れていく、使いたいということで参加しておられましたけど、新しい話題とか、操作については非常に関心は高いなと思っております。 一つは、皆さんがもう日常的に使われているので、いろんなノウハウを学校の中で共有できる、教えていけるという、そういう環境がだんだん整ってきているのではないかなとは思っています。
遠藤洋路 教育長	毎回のように参加する人というのは熱心でいいとは思いますが、毎回同じ人だったらあまり広まりませんけどね。そういう何か多くの人に参加してもらうような工夫とか、呼びかけとか、そういうことはやっているんでしょうか。
吉田潔 教育センター副所長	アプリ活用については、いわゆる年度当初に多くプログラムを組んでいて、採用されたばかりの方であるとか、不慣れな方

	対応のものというふうにしておりますけど、その後、例えば、さっきもChatGPTの話もしましたけど、今タイムリーなものを途中途中に入れていきますので、2週間ぐらい前に掲示板のほうに告知をさせていただいて、それだけ新しいものというのを取り入れているというのは、参加数を増やすことには今つながっているのかなと思っております。
遠藤洋路 教育長	分かりました。
小屋松徹彦 委員	やっぱり覚えの悪い人もいるでしょうし、私みたいに。そういう人にとっては何回も何回も研修が必要だと思うんですけど、やっぱりなかなか恥ずかしくて、何度も同じ研修を受けられないとか、そういうことでだんだん消極的になっていく先生が出ないことを願っています。できるだけその研修も、垣根がどんどん高くなっていく部分はあってもいいんですけど、ずっと低いままで置いてもらっておいて、そこを何度も気安く受講できるというか、そういった機会というのはやっぱりぜひ確保しておいてもらいたいなという希望ですね。
遠藤洋路 教育長	これは、レベルはそういう初心者向けから、何か結構レベル高いものまで、バラエティがあるんですか。
吉田潔 教育センター副所長	いわゆる操作の研修から始まりますが、それ以外にも今年は、夏の研修だったと思うんですけど、14ページを見ていただきますと、ARを使おうということで、先生方も特に楽しみながら活用していただいている研修もございましたので、いろいろな操作の活用の研修ももちろんありますけど、今最先端というか、面白いものを取り入れながら研修等の内容も工夫しているところでございます。
遠藤洋路 教育長	分かりました。
西山忠男 委員	今のお話は教育センターが実施している研修だったと思うんですけど、学校現場でも教員同士で教え合うというような、あるいは小さなグループをつくって勉強会をすとか、そういうことをやっているんじゃないんでしょうか。
吉田潔 教育センター副	今おっしゃられたとおり、学年部単位でも、そういうミニ研

所長	修を組まれたりとか、ICT支援員がおりますけど、15分とか20分パッケージの放課後のちょっとした時間での操作研修であるとか、あるいは、ほかの学校でこういう使い方をされていますよとか、そういう情報も入れていただくようなことをしているというのは聞いたことがございます。
村田 榎 委員	さっき映像を見せていただいている中に、わくわくできることが大切というコメントがあって、城東小の研究授業ですか、公開授業に見学に行かせていただいたときに、1年生の働く車についての授業をやっていて、最初、電子黒板が真っ黒なんですけど、先生が手を近づけたところだけ映像が見えるようになっていて、それを見ながらタイヤとか一部の車の色とかを見て、こどもたちが何の車を当てていくという時間に、たった1人だけ男の子が、先生がそうやっているときに、その車が何かは一切答えないんですよ。「先生、それどうやるの。それどうやってんの。」って、その操作に一生懸命興味を持っていて。家でも、私もこうやってタブレットを使わせていただくようになって、やり方が分からないときに、もちろん資料とかはこどもには見せていませんけど、どうやるのかというのを聞いたら、もう1を聞いたら20、30返ってくるし、ここをこういうふうにごうやると、こんなふうに使やすいよというのがあふれて出てくるんですね。だから、いろんな研修とか学校内での共有というのもですけど、案外身近な生徒さんたちに教えてもらうということもいっぱいあるんじゃないかなと思いました。
遠藤洋路 教育長	さっきの自己有用感が高まるかもしれませんもんね。実際、こどもから教えてもらえることは、先生個人では結構あるんじゃないのかなと思いますけどね。本当に吸収するのが早いんですよね。もしかしたらそういうこどもから教わろうというような研修があってもいいかもしれませんね。その辺も、もし企画できるなら考えてみてもいいでしょう。 大学生がやる研修みたいなのがありましたよね。
吉田 潔 教育センター副所長	県立大学の学生さんがプログラミング教育のプログラミングの授業をサポートしてくださっていて、夜の学習のSD研修でも、先生方向けには県立大の学生さんが全て司会進行から、操作方法から、一つのこまを担ってくださっていたりします。夏はこの会場でスフィロボルトといって、丸いボールが動いてプ

遠藤洋路 教育長

プログラムを組むことで四角形とか円形とか走るんですけど、そういう研修を行ったときも県立大の学生さんが全て、いわゆる教える、講師になってプログラミングの講義を担っていただいたというのは実際あります。

そういう学生さんたちが教員採用試験も受けて、面接で何かそういう活動を、ボランティアとか活動をしていますかと言うと、熊本市の教員研修をやっていますというので、今日も面接終わったら研修しに行きますみたいな人が何人かいましたよ。だから、先生の研修をやっている人をこれから先生として採用するんだなと思って、なかなかやっぱり得意分野というか、若い人のほうが得意なものってあるんだなと思いますね。

澤栄美 委員

その土曜日の教職大学院の情報教育研究会で、桜山中の実践もあったんですけど、それこそさっきの一貫校にも関係あると思うんですけど、桜山中の先生たちが、黒髪小の先生たちに、夏休みにいろんなアプリの扱い方を教えとか。この間、楠中学校の研究発表会に行ったんですけど、そのときにやっぱり校内研修で、自分たちの課題は何かというので面白い名前を課題ごとにつけていらっしゃって、振り返りをするのは振り返り美人とか、愛してるICTとか、そのICTのグループの先生たちは決して得意な人たちではなくて、不得意な人たちが集まって教え合っているとか、そういった校内研修の中に組み込んでそういうのをずっと1年間やっていくとかいうものもあります。そういう夏休みに特別に得意な先生たちが、たしか川上小も同じようなことをされていたような気がするんですけど、与えられたものを自分が一生懸命学んで、そして皆さんに教えとかというのものもあるかなというふうに思いました。

やっぱりアウトプットするというか、さっきの藤園中の理科の授業でもアウトプットが大事だってこどもたち言われていたんですけど、ラーニングピラミッドってありますよね。ただ聞いただけではなかなか入っていかないけど、やっぱり教えることでその記憶も高まるみたいなのはあります。そういったことを積極的にしてもらいたいのかなというふうに思いました。

遠藤洋路 教育長

分かりました。

ほかに御意見はよろしいですか。

今日の説明とか議論の中でも、いろんな学校でもう既にいろ

令和6年（2024年）2月 教育委員会会議録【2月22日（木）】

〔閉会〕 遠藤洋路 教育長	んな取組はされている、教育センターでもかなりたくさん のことをされているということなので、これがまた今度の更新 に向けてさらに広がっていくのが、これがとても必要なこと だと思いますし、実際にもういい取組はたくさんあるので、い かにそれを知ってもらっていろんな人に参加してもらえるか ということだと思います。ぜひ広報というか周知の部分も、 教育センターでも何か興味を持ってもらえるような周知の仕 方を考えてもらえるといいかなと思います。 ほかに御発言がなければ、以上で自由討議を終了いたし ます。 本日の会議日程は全て終了いたしました。これで、令和6年 2月定例教育委員会会議を閉会いたします。
--------------------------	---